

高市政権退陣へ 地方選挙で要求実現、戦争・改憲ノ―！ 「出会いに行く」仲間づくりさらに

1、めっちゃくちゃな自民・維新政治と 女性たちの変化

（1）レッドアクションで声をあげ、
平和の仲間ひろがる

第97回中央委員会から5カ月、新婦人は戦争とめる―憲法まもり―とレッドアクションをを広げ、いま高市首相の退陣を求める広範な人びとの行動へと発展しています。

国会前行動と呼応した自治体で、約500自治体で開催し、全国に会員がいる新婦人ならではの役割を発揮しています。手づくりのフラッグや「座ってアピール」など、さまざまな工夫が生まれ、デモカレンダーには新婦人の行動が並び、出合った人と「ネクストアクションカード」でつながると、「個人では限界。新婦人なら安心」「SNSで新婦人を知っていた」「政治の話がしたい」と話題になり、次世代の入会も相次いでいます。被爆の実相を伝える高校生「原爆の絵」展は、新婦人の申し入れて学校での開催や被爆者が語る憲法パネルの活用が広がり、地元メディアにも取り上げられています。

（2）暮らし・民主主義こわす 戦争国家づくり

最大震度7の熊本地震、日本各地での異常な豪雨、世界でも大災害が頻発しています。高市政権は、劣悪な避難所はもとより、防災の抜本的対策はなく、気候危機対策も原発推進ありきです。アメリカ言いなりの大軍拡と戦争国家づくり、経済の軍事化に突き進む高市自民・維新政権に、戦争準備ではなく防災・氣候対策を、の声を高めています。

とどまることのない物価高と生活苦で切実さを増す願いを無視し、高市政権の「消費税食料1%」は財源なし、2年後

2、各分野の運動と 委員会活動のまとめ



議案を活発に討論

熊本地震被災地に全国から寄せられた募金を届けることも、被災者の声や要望を聞いて国や自治体に要請しています。介護サービスや公共交通の拡充、中学校給食の無償化や学校統廃合、不登校、原発ゼロなど、当事者の切実な声で運動を広げ、米問題での学習や田植え・稲刈りなど、食と農を守る運動をすすめています。

ミサイル配備や弾薬庫建設、特定利用空港・港湾指定など「わたしのまちですむ大軍拡」や、自衛隊の接近・勧誘に反対し、行動しています。高校の研修旅行中の辺野古沈没事故を口実にした文科省の介入で平和教育を萎縮させないよう教育委員会や学校への申し入れをしています。新婦人「春の行動」では、ジェンダー平等めざす39万人、353人分の署名を集めました。

次世代対象の「就職氷河期世代」「私と新婦人」アンケートは、生活実態や仲間の大切さ、平和への思いなど、新婦人の活動への期待が寄せられています。オンライン講座「新婦人とは」は、新婦

「戦争とめる―憲法まもり―」のレッドアクションが各地で女性たちの受け皿となって新しい出会いを広げています。

この間の新婦人の活動の特徴は、議案でも触れますが、私自身もこの夏、国際的にも新婦人の価値を改めて実感しました。

あいさつ 歴史的役割いまこそ 地域から運動・仲間づくり大きく

新日本婦人の会会長 米山 淳子

まず最初に、経験のない酷暑と豪雨、地震で被災されたみなさまにお見舞い申し上げます。こうした大変ななかでの連日の活動、本当にお疲れさまです。

第32回全国大会でも第97回中央委員会でも打ち出した「歴史の岐路」をまことに実感する日々、新婦人の活動と役割が際立つなかでの中央委員会です。

命と地球をおびやかす気候危機、やまぬ戦争、人類が築きあげた国際規範、法の支配、まで壊す歴史逆行の動きに、世界中の市民が声をあげて立ち上がっています。日本でも高市政権の暴走に、国会や全国をつなぐペンライト行動がはかり、新婦人

原水爆禁止世界大会では、初めての「ジェンダー平等と核兵器廃絶運動」の分科会を、新婦人が企画・運営の責任を持ち、女性平和基金招待者のお二人も加え、平和をつくる女性の役割などを深めました。国際会議では国際組織の代表から原爆の絵展を地域でどう広げているかの質問に、議長から新婦人が名指

し、日本側からの基調報告を行うことになりました。私は高市政権下で加速する戦争国家づくりと改憲の動き、立ちこがる市民の活動、また戦後の韓国独裁政権時代にも続いていた日韓市民の連帯にも触れ、1900年代に新婦人がとりくんだ日韓条約反対や日本軍慰安婦・性奴隷問題の活動も紹介し、連帯を

高市政権の「めっちゃくちゃな政治」に抗議し、女性の政治参加を阻む衆議院比例定数削減反対の共同行動が始まっています。自民推薦候補を破った東京・清瀬市長選挙や杉並区長選挙では、図書館を守れ、会計年度任用職員の待遇改善など「公共を取り戻そう」と対話と住民参加をすすめています。

沖縄県知事選挙（9月13日投票）をはじめ中間選挙も相次ぎ、来春には重要な統一地方選挙がおこなわれます。この間の選挙戦ではSNSや街頭で、デマやヘイトをふりまく深刻な事態もありました。国の下請け機関ではなく、軍事化に歯止めをかけ、住民福祉の増進という本来の役割を発揮する自治体を全国で広げ、戦後最悪の高市政権に退陣を迫りましょう。どの支部・班でも、切実な要求を大切に、平和を守る仲間を大きく増やし、年内には前大会時の会員数を超えましょう。

人の魅力、「いまこそ束になろう」という呼びかけに共感が広がり、61回を超えた毎月の次世代ミニ交流は、初めての人も新婦人を体験できる貴重な場となっています。各県で毎週しんぶんタイムや次世代ミートイング、フィールドワークを重ね、入会したばかりの会員も6・10次世代国会行動や原水爆禁止世界大会に参加し、報告会や経験交流会がとりくまれました。

支部委員会や県との交流会などで、「新婦人学校」や「支部の委員会活動」を運動し組織づくりを重ねてきた64年の歴史をもつ新婦人、そういう女性団体が日本にあつて、各地で根を張って元気に活動していること、その重みをいまでも深く確信にしたいと思っています。

同時に、こうした劇的情勢と役割にふさわしい組織の前進をどうつくるか、この中央委員会の重要な課題です。悪政のなか、どの分野でも要求が切実で、期待も大きいだけに、忙しきは増すばかりですが、一番大変な仲間づくりが後回しになってないか、毎日の様々な活動のなかでどう会員ふやしを意識化し、独自の追求をつよめるか、率直な意見も出し合って深め合いたいと思います。

歴史の岐路にふさわしい活動をやさにする中央委員会となりましよう活発な討論をお願いします、あいさつとします。

人数のグループで「なぜ仲間づくり？」「要求実現のためにたたくさんの会員が必要」「増やさない支部がなくなる」と相談したことで仲間づくりを足ふみだし、元気になっていることです。外に向けた発信力をつ

3、地方選挙へ、出会い広げて 運動と仲間づくり

来春の統一地方選挙をみすえ、197中委決定にもとづくとりくみを引き続きすすめて、あらゆる

（1）「主権者は私たち」憲法まもり
生かす自治体をつくる！

引き続き、全自治体でのレッドアクションに挑戦し、デモカレンダーで知らせ、ネクストアクションカードでつながりましょう。

（2）班から出会いに行く
仲間づくりを

（3）あらゆる要求を
「新婦人で一緒に」

（4）次世代を迎えるさまざまな場を
呼びかけましょう。

（5）委員会は班とともに
年内前進めざして

（6）委員会活動の手引き
「女性と運動」14、25、26号を学習し、それぞれの条件を生かして「みんなで分担」をと委員会活動を見直し、

第198回中央委員会開かれる

新日本婦人の会9月5日、東京駅内で198回中央委員会をオンライン併用開催、米山会長があいさつした後、中央委員

討論のまとめ

会長 米山淳子

198回中央委員会は、中央委員137人中130人が出席し、オープナーは4人、33の発言は、どれも議案を豊かに深めるもので、激動の情勢を切りひらく新婦人の活動への確信が語られました。

どこでもレッドアクション、出会いが

討論の特徴の一つは、197中委で打ち出した「戦争とめる―憲法まもり―」「出会いに行く」仲間づくり「全自治体でのペンライト行動」へのまたオンラインでのしんぶん読む会、食事付きの交流会、DVD「新婦人ひとりの学習会など」「一人ひとりの願いを大事に」とともに行動する仲間としてのつながり方を話し合い、努力している発

けようと、SNSや画像作成講座にとりくんています。新婦人しんぶんの配達・集金で一人の負担が重くなっているかなど見直す相談が始まり、どこでも読める電子版（PDF）が好評です。組織調査では、班会・し

減税とインボイス廃止、医療介護のさらなる負担増と給付削減反対で行動しましょう。

（3）学校現場での自衛隊勧誘や平和教育介入を許さず、原爆展と学校や教育委員会へ要請・懇談をおこないましょう。加害と被害の歴史を学ぶ活動も大切にしましょう。

（4）次世代を迎えるさまざまな場を呼びかけましょう。

（5）委員会は班とともに
年内前進めざして

（6）委員会活動の手引き
「女性と運動」14、25、26号を学習し、それぞれの条件を生かして「みんなで分担」をと委員会活動を見直し、

（7）支部の委員会活動の手引き
「女性と運動」14、25、26号を学習し、それぞれの条件を生かして「みんなで分担」をと委員会活動を見直し、

（8）委員会活動の手引き
「女性と運動」14、25、26号を学習し、それぞれの条件を生かして「みんなで分担」をと委員会活動を見直し、

平和 防災！切実な要求を
革の根から

地方選挙をみすえアンケートで対話、要求を出し合つて学習や運動を広げている様子も、各地から語られました。

班や支部から原爆展を小中学校や大学、お寺やスーパーなどに広げ、ミサイル配備や特定利用空港・港湾指定などの軍事基地強化反対、教育への行政の介入を許さないとりくみ、フィールドワークを通じて沖縄や戦争などの問題を「自分ごと」とし行動の力にしている発言もありました。

地震や豪雨災害の被災地からは、いち早く届けられた募金や救援基金への感謝と、防災対策の遅れを指摘。来年度予算案、軍事費9兆円に対し防災予算はわずか651億円「軍拡より災害対策」、原発に依存せず省エネ・再生可能エネルギーへの

最後に、沖縄県知事選挙勝利へ力を尽くすことを訴え、討論のまとめとします。